

2 令和6年度～8年度における宿泊税の活用状況の全体像

	R6決算	R7予算	R8予算
宿泊税込	62億円	59億円	132億円

施策	R6決算 充当額	R7予算 充当額	R8予算 充当額
① 観光を通じた京都の魅力の継承・発展 (うち、宿泊施設等への災害等の備えや発災後の観光需要回復のための積立)	5億円	8億円	22億円 (5億円)
② 文化の力を活かした価値創造 (うち、持続可能な形の文化財の保存・継承・活用のための積立)	6億円	5億円	19億円 (10億円)
③ 品格ある景観創造 (うち、解体危機のある京町家の再生や一時保有等のための積立)	7億円	4億円	18億円 (5億円)
④ 観光課題対策の着実な実施 (うち、京都の都市交通のあり方検討等を踏まえた交通混雑対策等のための積立)	9億円	9億円	35億円 (10億円)
⑤ 市民・観光客双方の利便性向上や安心安全につながる都市基盤整備	32億円	26億円	35億円
徴収事務経費	2億円	6億円	4億円
合計	62億円	59億円	132億円

※ ①～④の将来的な財政需要に備え、R8予算にて計30億円を基金に積立て

令和7年度、8年度は見込額

これまでは、観光客が便益を受けておられる事業に必要な経費に対し、約5割の宿泊税収入に留まっていたため、残りは市民の皆様からいただく税金などの一般財源を活用し、観光関連事業を実施してまいりました。

令和8年3月の宿泊税率見直し等により、令和8年度予算では、宿泊税収入が大幅に増加(前年比+73億円)し、対象事業費の約8割を宿泊税で賄うことができるようになりました。

これにより、市民の皆様が税金などの一般財源について、市内子育て世帯への支援策など、観光関連事業以外に更に活用できるようになりました。

<参考>

